



さぎそう

帰国・外国人教育相談室だより

令和8年1月26日発行

世田谷区 帰国・外国人教育相談室 (梅丘中学校内)

年頭所感

世田谷区教育委員会事務局 学務課 課長 近藤 成治様

新しい年を迎え、皆さんに心よりご挨拶申し上げます。

新年は、昨年の自分を振り返り、新たな目標に向かって一歩踏み出すよい機会です。ぜひ、今年の目標を決め、その目標に向かって挑戦してみてください。

皆さんのなかには、日本での慣れない環境や、言葉や文化の違いに戸惑い、学校での勉強に難しさを感じることも多いと思います。しかし、学校の授業や初期指導、補習教室で学んだことはすべて、皆さん一人一人の確かな力になっていると思います。「継続は力なり」という言葉があるように、日々の小さな学習に一生懸命取り組んでいれば、一年後、さらに成長した自分を実感できるはずです。わからないことがあれば、一人で悩まず、先生や相談室に声をかけてください。学校とともに、帰国・外国人教育相談室や講師の先生方は皆さんを応援し、サポートしていきます。そして私たち教育委員会も、皆さんのが安心して学ぶことができるよう努めてまいります。

保護者をはじめ、関係者の皆さんにおかれましても、日ごろより、多大なるご支援・ご協力をいただいておりまこと、厚く御礼申し上げます。本年も、帰国・外国人児童・生徒の教育に変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。そして、すべての皆様にとりまして、ご健康で輝かしい一年となりますよう心より願っております。

世田谷区教育委員会事務局 教育指導課 副参事 赤司 祐介様

新年あけましておめでとうございます。

令和8年を迎える皆さんはどんな一步を踏み出そうとしていますか。今年の干支は「午（うま）」です。古来、馬は力強さとスピード、そして仲間とともに進む協働の象徴とされてきました。教育の現場においても、変化の速い時代をしなやかに駆け抜け、共に学び合う力がますます求められています。

世田谷区では、令和7年3月に「せたがやインクルーシブ教育ガイドライン」を策定しました。これは、年齢、性別、性的指向及びジェンダー・アイデンティティ、国籍、障害などに問わらず、誰もが自分らしく学校生活を送ることのできる環境を整えるための指針です。多様な子どもたちを「誰一人取り残さない教育」を実現することは、教育委員会の大きな使命です。

さらに、今年度は国際理解教育のより一層の推進を通じて、子どもたちに異文化理解・多文化共生の視点を育てていきます。異なる文化や価値観を尊重し、協力しながら課題を解決する力は、未来を生きる子どもたちに不可欠です。

日本と世界の両方を知る皆さんには、その力を発揮できる場がますます広がっています。皆さんを持つ2つの視点は、橋を架ける力です。日本の文化を理解しながら、世界の多様性を受け入れができるさんは、学校や地域で「つなぐ役割」を担うことができます。友達に新しい言葉や習慣を教えたり、異なる考え方を紹介したりすることで、周囲の人々に新しい気づきを与え、互いに学び合う場をつくることができます。これから社会では、国境を越えた協力や共生がますます重要になります。皆さんの経験や感性は、その未来を切り拓く大きな力になるのです。

保護者や関係者の皆様には、日頃より多大なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。本年も変わらぬご理解とご協力を願い申し上げます。そして、すべての皆様にとって、希望に満ちた一年となりますようお祈りいたします。

年の初めに、お言葉をいただきました。令和7年度補習教室も、残すところ数回となりました。世田谷区の帰国・外国人の小・中学生の日本語指導の充実に向けて新たな出発をいたします。今後とも、ご協力のほどよろしくお願いいたします。